

地方独立行政法人府中市病院機構
第3期中期目標期間の業務実績
に関する評価

令和 6 年 7 月
府 中 市

はじめに

この評価は、令和6年1月に策定した、地方独立行政法人府中市病院機構（以下「病院機構」という。）の第3期中期目標期間（令和2年度から令和5年度まで。以下「同期間」という。）の終了時に見込まれる業務の実績に関する評価を踏まえつつ、地方独立行政法人法（平成15年7月16日号外法律第118号。以下「法」という。）第28条第1項第3号の規定に基づき、病院機構の同期間の業務の実績に関する評価を行ったものである。病院機構におかれては、法第29条に定めるとおり、この評価の結果を今後の中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させるとともに、その反映状況を広く公表されたい。

第3期中期目標期間の業務の実績等に関する評価

【総合的な評価】

令和2年度以降、拡大する新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）に対し、府中市民病院及び府中北市民病院（以下「両病院」という。）は新型コロナの「診療・検査医療機関」として、早期から感染が疑われる発熱患者の外来診察受入やPCR検査の実施、陽性患者受入のための病床改修及び入院治療、府中地区医師会と協力してのワクチン接種といった対応に積極的に取り組まれた。新型コロナが第5類感染症に移行した後も、こうした患者受入体制は継続して確保されており、市民の安心・安全を守るという公立病院の役割がしっかりと果されていると評価する。また、未曾有のパンデミックにより、医療機能の確保や病院経営も困難であった中、新型コロナの対応に取り組まれた医師を初めとした病院職員の献身的な対応に対して、市として重ねて感謝申し上げるものである。

一方で、令和5年度に係る業務の実績等に関する評価でも指摘したように、全国的に中山間地域の医療機関が患者減少等で苦戦する中、病院機構においても前年度決算までの状況と一転して大幅に収支が悪化することが予測されたことから、市では物価高騰対策支援に加え追加の財政支援を緊急に実施したが、それでも尚、令和5年度決算は約3,600万円の赤字となったことについては、次期中期目標期間中に必ず改善すべき課題として指摘しなければならない。業務内容の見直しやタスクシフト等による職員体制の効率化、近隣公立病院との人事交流促進による給与費抑制などに取り組んだことで、保有資金の枯渇という最悪の事態が回避できたことは評価するものであるが、両病院の健全な経営を持続させるためにも、これまでの収支改善の取組だけで安心することなく、令和6年の診療報酬改定などを踏まえた収益確保などに積極的に取り組まれない。

病院機構においては、両病院に求められる医療機能を常に検証し、効率的かつ効果的な医療提供体制のあり方について検討しつつ、「類似する他病院との比較などによる経営上の課題の把握と改善」に取り組み、具体策（なにを・いつから・効果額）をとりまとめて市と共有したうえで常にその進捗を確認し、必要に応じて改善を図りたい。また、その結果については市との共有を図りたい。

【事項ごとの評価】

大項目2の「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の達成に向けた取組については、概ね取り組んでいるものと評価する。

まず中項目1の「市民病院として担うべき医療」において評価する主な点としては、救急車受入件数は目標を達成するとともに両病院とも各年度常に一定程度の受入割

合を保っており、地域の救急医療機能の維持に寄与していること、府中市民病院がへき地医療拠点病院として無医地区等への巡回診療の実施や、府中北市民病院への内科医師派遣による診療体制の維持に努めていること、「周産期医療対策、小児医療対策」について、両病院において婦人科及び小児科診療の維持や各種検診の実施など地域に必要な医療の提供に努めていることに加え、指標に係る数値目標には達しなかったが「女性予防医学チーム」による市の保健事業と連携した活動など、数値に表れない活動に取り組んでいること、そして「在宅医療と介護等の連携体制」について、府中北市民病院はサービス付き高齢者向け住宅の整備や近隣の訪問介護事業所休止に伴う利用者受入など、上下地域の地域包括ケアの拠点機能を担っており、サービス付き高齢者向け住宅は、整備前に目標設定していた入居率85%を達成し続けていることなどがある。

一方で、改善を求める主な点としては、防火・災害対策訓練や備蓄品確保に不足が見られる状況が続いており、近年の多発する自然災害を意識し、自らが策定した計画の着実な実施に努める必要があること、市内で不足する婦人科や小児科の常勤医師の確保に向け、引き続き市と連携した医師の招へいに取り組む必要があること、健診事業等の継続を通じ、市民の健康寿命延伸への協力・貢献が認められるが、医師数の増加が実現できず、健診等の受入拡大に関する指標の数値目標は達成できなかったことから、引き続き医師の増員による健診体制の強化に取り組む必要があることなどが挙げられる。

中項目2の「病院の役割に応じた医療機能の確保」において評価する主な点としては、総務省が策定を求めている「公立病院経営強化プラン（中期計画）」について市の基本方針を踏まえた内容となっていること、府中北市民病院では備北圏域からの診療支援など、広域的な連携を図っていることで、持続可能な連携体制が構築できることに期待が持てること、医師確保の取組により、減少していた府中市民病院の常勤医師数が回復傾向にあり、外科の手術再開・外科の救急受入が可能となったほか、診療科の充実が図られるなど、着実に医療提供体制の整備につながっていること、府中北市民病院では市と連携して医師招へいに努めたことで常勤医師の減少を回避できた（自治医科大卒業医師の派遣実現）ことなどが挙げられる。

一方で、改善を求める主な点としては、計画に定めた内容について具体的な取組が不透明である項目が散見され、今後は具体的にどのような取組を行い、その成果はどうであったのかを明らかにすること、看護師育成の奨学金制度や採用情報の周知だけでは十分な取組とは言えず、今後は病院機構全体で看護部の業務見直しや必要な看護師数の合意形成をしたうえで、看護師確保の目標や取組の過程、成果を明確にすることなどが挙げられる。

中項目3の「地域医療の促進に資するICT技術の活用検討」においては、オンラ

イン診療や電話での薬の処方に対応するなど、新型コロナ感染拡大下での受診機会の確保に努めたことを評価するが、一方で、遠隔医療の導入などの新たな医療提供に関し、検討を行ったのかどうか不明であることや今後は全国的な課題であるサイバーセキュリティ対策にも万全を期す必要がある。更に、HM カードの発行枚数は毎年度目標を大きく下回っており、周知活動のあり方や利活用策についてどのような検討を行ったのかが不明であることについても改善を求めるものである。

次に、大項目 3 の「業務運営の改善及び効率化に関する事項」についても、概ね順調に取組が進められていると評価する。

まず、中項目 1 の「市民から選ばれる病院づくり」において評価する主な点としては、患者満足度調査により、概ね好評を得ていること、e ラーニングや動画視聴など、研修機会の確保のための工夫が図られていることが挙げられる。

一方で、改善を求める主な点としては、患者満足度調査は手段であって満足度の向上そのものが目的であることを念頭に接遇研修などの取組を継続して実施することで、市民から選ばれる病院となるよう一層努める必要があることや、市民への情報発信についてはただ情報を発信するのではなく、利用者へ欲しい情報が届くような取組とする必要があることが挙げられる。

中項目 2 の「組織としての経営の専門性の向上」については、他の医療機関での勤務実績が豊富な人材の確保が進んでいることを評価するものであるが、経営の専門性を高めるための人材育成についてはもう一段上の取組を求めたい旨付記する。

中項目 3 の「業務管理（リスク管理）の充実」については、研修等が適切に実施されていると評価する。また、中項目 4 の「働きやすい職場環境の整備」についても、職員満足度調査の結果を踏まえた職場環境改善や院内保育の整備など、仕事と子育ての両立に資する取組が進められていると評価するものである。

一方、中項目 5 の「人事制度の効果的な活用」については、3 期が経過しても病院機構全体での制度設計が進展しておらず、他の地方独立行政法人の人事制度の活用事例を参考にするなどして、職員の意欲を引き出せる人事制度を構築する必要があるので改善を図られたい。

大項目 4 の「財務内容の改善に関する事項」の達成に向けた取組については、残念ながら計画を十分に実施できていない項目があると評価せざるを得ない。

中項目 1 の「経営機能の強化による自立した病院運営」について、常勤医師数の増加や医療機能の拡充に伴い、医業収益の増加が図られてきたが、新型コロナの第 5 類感染症移行後に医業収益が悪化したことに加え、物価高騰や人件費の上昇に起因する費用の増加も相まって、令和 5 年度には物価高騰対策支援に加え市からの追加財政支

援を受けても経常収支の目標を達成できなかったことは、今後の病院経営における大きな課題となった。

本中期目標期間は社会情勢が大きく変化し、病院経営に及ぼした影響を予測することは困難であったことは理解できるが、持続可能な医療提供体制の確保には、病院機構の財務基盤の安定が欠かせない。両病院の収益の悪化に対し、迅速に対策を講じることができたかについて検証し、その反省を今後の病院経営機能の強化に活かす必要があるので、中期計画にあった「類似する他病院との比較などによる経営上の課題の把握と改善」に取り組み、その結果については市との共有を図られたい。

一方で、病院の経営状況を鑑み、職員体制の効率化を一部で始めるなど、地方独立行政法人の強みを活かして給与費の増加抑制に努めた点については評価するものである。

中項目2の「収入の確保と支出の削減」については、診療報酬改定への対応や検証などについては着実に取り組まれているので、取得可能な診療報酬の加算などに積極的に取り組む必要があると評価する。経営改善に向けては、市と病院機構で定めた医業収益の目標を達成していくことで保有資金を増やすことがその第一歩である。

収益確保の具体策（なにを・いつから・効果額）をとりまとめ、常にその進捗を市と協力して確認し、必要に応じて改善を図られたい。

中項目3の「計画的な投資と財源の確保」については、市と協議して有利な財源の確保に努めるとともに、優先順位をつけて設備投資を行うなど、計画期間中の設備投資総額内に納める工夫がなされていたことを評価する。

大項目5の「その他業務運営に関する重要事項」の達成に向けた取組については、府中市民病院では、女性予防医学チームを立ち上げ、市の保健事業と連携して講演会に講師として婦人科医師を派遣したこと、府中北市民病院では、フレイル予防のため、院長を中心に講演会を開催するなどの取組がなされていること、コロナ禍において、早期からPCR検査機器を新たに導入しての検査対応、発熱外来による診察受入、専用病床の整備による入院治療の実施、府中地区医師会と連携し、ワクチンの集団接種や個別接種への協力などへ積極的に協力したことを高く評価する。

なお、その他の項目については、該当する取組がなかったため、評価を割愛することとする。

大項目 2：住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

	中期目標	中期計画	主な事業実績及び課題（機構報告書から）	評 価					
				R2	R3	R4	R5		
1 市民病院として担うべき医療	(1) 救急医療対策	■在宅当番医制での休日応急診療に協力 ■病院群輪番制への参加 ■三次救急医療機関等との連携強化	●休日当番医として内科系と外科系の初期救急を担う。 ●病院群輪番制病院として医療提供	○ ○ ○ ○				○	○救急車受入件数は目標を達成するとともに、両病院とも各年度常に一定程度の受入割合を保っており、地域の救急医療機能の維持に寄与している。
	(2) 災害時における医療対策	■緊急時職員マニュアル・BCPの作成 ■災害発生時対応訓練の実施及び防災訓練等への参加 ■ライフライン確保策の検討及び備蓄の確保 ■災害発生時における必要な医療の提供	●緊急時職員マニュアル・BCPの作成 ●災害発生時対応訓練の実施及び防災訓練等への参加 ●ライフライン確保策の検討及び備蓄の確保 ●災害発生時における必要な医療の提供	× △ △ △				△	●防火・災害対策訓練や備蓄品確保に不足が見られる状況が続いており、近年の多発する自然災害を意識し、自らが策定した計画の着実な実施に努められたい。
	(3) へき地の医療対策	■府中市民病院による巡回診療の実施 ■へき地医療支援病院との連携強化	●府中市民病院による巡回診療の実施 ●へき地医療支援病院との連携強化	○ ○ ○ ○				○	○へき地医療拠点病院として準無医地区への巡回診療の実施や、府中北市民病院への内科医師派遣による診療体制の維持に努めているので、今後はへき地医療支援病院との連携をさらに強化するよう努められたい。
	(4) 周産期医療対策、小児医療対策	■妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援に必要な医療提供体制の構築 ■二次医療圏域内の医療機関との役割分担の明確化 ■外来診療・婦人科検診の維持及び医師確保の取組	●妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援に必要な医療提供体制の構築 ●二次医療圏域内の医療機関との役割分担の明確化 ●外来診療・婦人科検診の維持及び医師確保の取組	○ ○ ○ ○				○	○両病院において、婦人科及び小児科診療の維持や各種検診の実施など、地域に必要な医療の提供に努めている。指標に係る数値目標には達しなかったが、「女性予防医学チーム」による市の保健事業と連携した活動など、数値に表れない活動に取り組んでいる。 市内で不足する婦人科や小児科の常勤医師の確保に向け、引き続き市と連携した医師の招へいに取り組まれたい。

年度評価：

◎・・・年度計画を上回って実施	○・・・年度計画を順調に実施
△・・・年度計画を十分に実施できていない	×・・・年度計画を大幅に下回っている

大項目 2：住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項																															
	中期目標		中期計画		主な事業実績及び課題（機構報告書から）	評 価																									
						R2	R3	R4	R5																						
3 地域医療の推進に資するICT技術の活用 の検討	(1) ICT 技術を活用した、新たな医療提供				＜府中市民病院・府中北市民病院＞ ・ コロナ禍の中でオンライン診療を開始したが、まだ対象患者は限定的である。 ・ 市内の情報通信基盤の整備状況やシステムの技術的進歩の状況を注視しつつ、遠隔医療の導入など新たな医療提供について検討する。	◎	○	○	△	○オンライン診療や電話での薬の処方に対応するなど、新型コロナ感染拡大下での受診機会の確保に努めた。 ●遠隔医療の導入などの新たな医療提供に関し、検討を行ったのかどうか不明。 今後は全国的な課題であるサイバーセキュリティ対策にも万全を期されたい。																					
	■ 遠隔医療の導入など新たな医療提供についての検討		● 遠隔医療の導入など新たな医療提供についての検討																												
	(2) HMネットの普及促進				＜府中市民病院＞ ・ 広島県内の医療連携における I C Tの活用として、「ひろしま医療情報ネットワーク（HMネット）」に情報開示及びHMカード発行病院として参加している。HMカード発行枚数は、目標を大きく下回った。 <table border="1"><tr><td></td><td>HMネット</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td colspan="2">5年</td></tr><tr><td></td><td></td><td>実績</td><td>実績</td><td>実績</td><td>目標</td><td>実績</td></tr><tr><td>病院機構</td><td>発行枚数</td><td>5</td><td>2</td><td>2</td><td>100</td><td>7</td></tr></table>		HMネット	2年	3年	4年	5年				実績	実績	実績	目標	実績	病院機構	発行枚数	5	2	2	100	7	×	×	×	×	●HM カードの発行枚数は毎年度目標を大きく下回っており、周知活動のあり方や利活用策についてどのような検討を行ったのかが不明である。
		HMネット	2年	3年		4年	5年																								
		実績	実績	実績	目標	実績																									
病院機構	発行枚数	5	2	2	100	7																									
■ 医師会を初めとした関係機関と協力し「HM ネット」の利活用等に努めること。		● 医師会を初めとした関係機関と協力し「HM ネット」の利活用等に努める。																													

年度評価：

◎・・・年度計画を上回って実施

○・・・年度計画を順調に実施

△・・・年度計画を十分に実施できていない

×

・・・年度計画を大幅に下回っている

大項目 3：業務運営の改善及び効率化に関する事項

	中期目標	中期計画	主な事業実績及び課題（機構報告書から）	評 価																										
				R2	R3	R4	R5																							
1 市民から選ばれる病院づくり	(1) 患者満足度調査の実施とそれに伴う接遇の向上		<府中市民病院・府中北市民病院> - 両病院とも、年1回患者満足度調査を実施するとともに、患者満足度向上のための研修会を開催。 - 令和2年度の調査結果から、市の広報誌に掲載。 - 全職員対象の接遇研修を定期的に行う。 - 患者サービス向上委員会を毎月実施するとともに、職員対象の患者満足度向上に向けた接遇研修会をeラーニングや動画視聴により実施（府中市民）。 <table border="1"><thead><tr><th colspan="2">満足度調査</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th colspan="2">5年</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>実績</th><th>実績</th><th>実績</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>府中市民病院</td><td>実施回数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></tbody></table>	満足度調査		2年	3年	4年	5年				実績	実績	実績	目標	実績	府中市民病院	実施回数	1	1	1	1	1	○	○	○	○	○	○患者満足度調査により、概ね好評を得ている。 患者満足度調査は手段であって満足度の向上そのものが目的であることを念頭に、接遇研修などの取組を継続して実施し、市民から選ばれる病院となるよう努められたい。 ○eラーニングや動画視聴など、研修機会の確保に向けた工夫は評価できる。 ●市民への情報発信については、ただ情報を発信するのではなく、利用者へ欲しい情報が届くような取組に努められたい。 今後予定されている両病院のホームページリニューアルに期待するものである。
	満足度調査			2年	3年	4年	5年																							
			実績	実績	実績	目標	実績																							
	府中市民病院	実施回数	1	1	1	1	1																							
(2) 市民への積極的な情報発信		- 市の広報誌に「病院機構だより」として年4回法人としての情報を発信。 - 上下地域の介護事業所等と協力して地域情報紙「ええじゃん上下」の発行を継続。 - 両病院のホームページをR6年度に更新する。	△	○	○	△																								
	(3) 安心・安全な医療提供体制の確立		- 医療安全委員会を毎月開催し、インシデント・アクシデントレポートを共有することで職員の医療安全対策意識を高めた。 - 新入職員研修会を始め、継続して職員を対象に個人情報保護研修会を実施した。	○	○	○	○	●病院機構全体として、今後も安心、安全な医療提供体制の確立に努められたい。																						
	- 職員の医療安全対策の意識向上、医療事故・院内感染の発生・再発防止に向けた組織的な取組 - 個人情報保護や情報公開等に関するコンプライアンスの徹底	- 職員の医療安全対策の意識向上、医療事故・院内感染の発生・再発防止に向けた組織的な取組 - 個人情報保護や情報公開等に関するコンプライアンスの徹底																												
2 組織としての経営の専門性の向上	- 外部評価等を積極的に活用し、目標の達成に必要な改善に取り組むこと。 - 病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を確保・育成し経営の専門性を高めること。	- 外部評価等を積極的に活用し、目標の達成に必要な改善に取り組む - 病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を確保又は育成し経営の専門性を高める。	《府中市民病院》 - 法人外部の医療機関から、府中市民病院の事務長・医事課長の2名を招へいた。 - 令和5年度には、市からの派遣職員が帰任し、全ての職員が法人職員となった。 - 月2回開催する病院運営会議において幹部職員による意見交換を活発化することで、中期目標等に掲げる目標の達成に必要な改善に取り組んだ。 《府中北市民病院》 - 院長、事務長、看護部の三者協議を週1回定例で開催し、その協議結果を毎月開催の病院運営会議で共有することにより病院運営の安定を図った。	○	○	○	○	○他の医療機関での勤務実績が豊富な人材の確保が進んでいることなど、実施している取組については継続して取り組まれたい。 ●ただし、経営の専門性を高めるための人材の育成についてはもう一段上の取組を求めたい。																						

3 業務管理（リスク管理）の充実	■ 行動規範と職員倫理の確立 ■ 監事による監査など業務管理の見直しと課題の改善 ■ 公益通報制度等の適切な運用による病院運営の透明性の確保	● 行動規範と職員倫理の確立 ● 監事による監査など業務管理の見直しと課題の改善	＜府中市民病院・府中北市民病院＞ ・ 行動規範と職員倫理の確立に向けた取り組みとして、両病院において、毎年ハラスメントアンケート調査と研修会を実施した。	○	○	○	○	○引き続き、関係法令の遵守や、行動規範と職員倫理の確立に向けて取り組まれたい。
4 働き易い職場環境の整備	■ 働き方改革に対応した勤務制度の構築と勤務し易い院内環境の整備	● 働き方改革に対応した勤務制度の構築と勤務し易い院内環境の整備及び短時間正職員制度や限定正職員制度などの活用による人材確保	＜府中市民病院・府中北市民病院＞ ・ 職員満足度調査を実施することで、職員の仕事、職場環境や組織に対しての満足度を把握し、働き易い職場環境の改善に努めた。	○	○	○	○	○職員満足度調査の結果を踏まえた職場環境改善や院内保育の整備など、仕事と子育ての両立に資する取組が進められている。
5 人事制度の効果的な活用	■ 効果的な人事評価制度の導入	● 効果的な人事評価制度の導入	＜府中市民病院・府中北市民病院＞ ・ 職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出されるよう、効果的な人事評価制度の導入に向け、引き続き人事制度の効果的な活用を検討する。	△	△	△	×	● 3期が経過しても病院機構全体での人事評価の制度設計が進展しておらず、他の地方独立行政法人の人事制度の活用事例を参考にするなどして、職員の意欲を引き出せる人事制度の構築に努められたい。

年度評価：
◎・・・年度計画を上回って実施
△・・・年度計画を十分に実施できていない
○・・・年度計画を順調に実施
×・・・年度計画を大幅に下回っている

大項目 4：財務内容の改善に関する事項																																			
	中期目標	中期計画	主な事業実績及び課題（機構報告書から）	評 価																															
				R2	R3	R4	R5																												
1 経営機能の強化による自立した病院経営	■ 中期目標期間中の経常収支均衡の達成 ■ 具体的な経営指標の数値目標の設定と達成状況の管理及び類似する他病院との比較などによる経営上の課題の把握とその改善	● 中期目標期間中の経常収支均衡の達成 ● 類似する他病院との比較などによる経営上の課題の把握とその改善	各年度の経常収支比率（目標値：市からの負担金収入を含めた経常収支比率が1 0 0 %を超える） ・令和2年度：9 6． 9 % 目未達成 ・令和3年度：1 0 2． 6 % 目標達成 ・令和4年度：9 9． 8 % 目標未達成 ・令和5年度：9 9． 1 % 目標未達成 ※ 令和5年度は繰出基準に基づく負担金交付に加え、追加財政支援 7,000 万円、物価高騰対策交付金(財源：国交付金)4,500 万円あり。 <table><tr><td></td><td></td><td>2 年</td><td>3 年</td><td>4 年</td><td colspan="2">5 年</td></tr><tr><td></td><td></td><td>実績</td><td>実績</td><td>実績</td><td>目標</td><td>実績</td></tr><tr><td rowspan="2">病院機構</td><td>経常収支比率%</td><td>96.9</td><td>102.6</td><td>99.8</td><td>101.1</td><td>99.1</td></tr><tr><td>医業収支比率%</td><td>96.7</td><td>102.5</td><td>99.6</td><td>100.8</td><td>98.7</td></tr></table>			2 年	3 年	4 年	5 年				実績	実績	実績	目標	実績	病院機構	経常収支比率%	96.9	102.6	99.8	101.1	99.1	医業収支比率%	96.7	102.5	99.6	100.8	98.7	△	○	○	△	●常勤医師数の増加や医療機能の拡充に伴い、医業収益の増加が図られてきたが、新型コロナウイルス感染症5類移行後に医業収益が悪化したことに加え、物価高騰や人件費の上昇に起因する費用の増加も相まって、令和5年度には物価高騰対策支援に加え市からの追加の財政支援を受けても経常収支の目標を達成できなかった。本中期目標期間は社会情勢が大きく変化し、病院経営に及ぼした影響を予測することは困難であったことは理解できるが、持続可能な医療提供体制の確保には、病院機構の財務基盤の安定が欠かせない。 ●両病院の収益の悪化に対し、迅速に対策を講じることができたかについて検証し、その反省を今後の病院経営機能の強化に活かす必要があるので、中期計画にあった「類似する他病院との比較などによる経営上の課題の把握と改善」に取り組み、その結果については市との共有を図られたい。 ○職員体制の効率化を一部で始めるなど、地方独立行政法人の強みを活かして給与費の増加抑制に努めた点については評価する。
		2 年	3 年	4 年	5 年																														
		実績	実績	実績	目標	実績																													
病院機構	経常収支比率%	96.9	102.6	99.8	101.1	99.1																													
	医業収支比率%	96.7	102.5	99.6	100.8	98.7																													
2 収入の確保と支出の削減	■ 効率的な病床利用や医療機器の稼働率の向上、積極的な収入確保の取組 ■ 診療報酬請求漏れ防止、未収金の発生予防及び管理・回収などへの適切な対策 ■ 両病院における医療品・医療機器等の共同購入や各部門の業務内容や実施体制の見直しによる支出の削減	● 効率的な病床利用や医療機器の稼働率の向上、積極的な収入確保の取組 ● 診療報酬請求漏れ防止、未収金の発生予防及び管理・回収などへの適切な対策 ●両病院における医療品・医療機器等の共同購入や各部門の業務内容や実施体制の見直しによる支出の削減	<両病院> ・両病院とも新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言下であっても発熱外来の開設や陽性患者の入院受入、ワクチン接種への積極的協力等を行う中で収益の確保に努めてきた。 ・新型コロナウイルスの5類感染症移行後、コロナ対策の財政支援が縮小した一方で患者の受診行動も大きく変化し、両病院とも入院収益を中心に収益が減少した。 R2 年度医業収益 32 億 7,500 万円(補助金含む) R3 年度医業収益 34 億 3,300 万円(同上) R4 年度医業収益 33 億 9,800 万円(同上) R5 年度医業収益 32 億 7,600 万円(同上)	◎	○	○	○	○診療報酬改定への対応や検証などについては着実に取り組まれているので、取得可能な診療報酬の加算などに引き続き積極的に取り組まれない。病院機構全体として、引き続き経常収支黒字化に向け取り組まれない。 ●経営改善に向けては、まずは市と病院機構で定めた医業収益の目標を達成して																											

			・最低賃金の増額をはじめとした賃金増加政策により給与費が増加した。また、委託事業者の給与費増加により委託費も増額を余儀なくされた。 ・エネルギー価格をはじめとした物価高騰により、経費も増加した。 ＜府中北市民病院＞ ・患者の減少に対応した職員体制の効率化を進め、職員配置の再検討と看護部の業務見直しを実施。法人内での人事異動や近隣公立病院（市立湯が丘病院）との人事交流を促進した。					いくことで保有資金を増やすことがその第一歩である。 収益確保の具体策（なにを・いつから・効果額）をとりまとめ、常にその進捗を市と協力して確認し、必要に応じて改善を図られたい。
3 計画的な投資と財源の確保	■ 建物や設備の改修、医療機器の整備・更新などの投資の中期目標期間中の整備・更新計画の策定と計画的な投資の実施 ■ 将来の設備投資に向けた財源の確保	● 建物や設備の改修、医療機器の整備・更新などの投資の中期目標期間中の整備・更新計画の策定と計画的な投資の実施 ● 将来の設備投資に向けた財源の確保	＜府中市民病院・府中北市民病院＞ ・市と調整して病院の設備投資の財源に過疎対策事業債を充当するようにし、長期借入金残高の削減に努めた。 ・医療機器の更新は、耐用年数と使用頻度を考慮し、計画的に行った。	○	○	○	○	○市と協議して有利な財源の確保に努めるとともに、優先順位をつけて設備投資を行うなど、計画期間中の設備投資総額内に納める工夫がなされていた。

大項目 5：その他業務運営に関する事項								
	中期目標	中期計画	主な事業実績及び課題（機構報告書から）	評 価				
				R2	R3	R4	R5	
1 市の健康福祉施策への積極的な協力	(1) 市の施策への積極的な協力 ■ 市の医療・健康・福祉関連施策に対する積極的な協力	● 市の医療・健康・福祉関連施策に対する積極的な協力	＜府中市民病院＞ ・コロナ対策として、発熱外来の開始、コロナ病床確保、ワクチン接種への協力、乳幼児の個別健診実施。 ・「女性予防医学チーム」を立ち上げ、市の担当課と連携した啓発活動を実施。 ＜府中北市民病院＞ ・コロナワクチン接種を積極的に実施。 ・市の健診事業を実施。 ・地域での介護予防の講演会などに医師が積極的に参加。	○	○	○	○	○府中市民病院では、女性予防医学チームを立ち上げ、市の保健事業と連携して講演会に講師として婦人科医師を派遣した。 府中北市民病院では、フレイル予防のため、院長を中心に講演会を開催するなどの取組がなされている。 ○コロナ禍において、早期からPCR 検査機器を新たに導入しての検査対応、発熱外来による診察受入、専用病床の整備による入院治療の実施、府中地区医師会と連携し、ワクチンの集団接種や個別接種への協力などへ積極的に協力したことを高く評価する。

年度評価：

◎・・・年度計画を上回って実施
 △・・・年度計画を十分に実施できていない

○・・・年度計画を順調に実施
 ×・・・年度計画を大幅に下回っている